



地域づくりの支え手入門講座 第2回栄村小滝

栄村小滝区は、2011年3月12日に発生した長野県北部地震で甚大な被害を受けました。被災をきっかけに小滝区では住民同士で話し合いを重ね、「小滝復興計画」を策定し、暮らしを守る「区」、学びと交流の「公民館」、関係人口をつくる「合同会社小滝プラス」の3つの組織が連携し、「300年後も続く集落づくり」に取り組んでいます。

現地散策と住民の皆さんのお話を通して、取組の実際や思いについて学びました。振り返り会場のブナ林がとても素敵でした。

受講者：42名（現地参加25人、後日YouTube視聴17人）

<研修内容>

はじめに 小滝神社にて

「小滝ってどんなところ」栄村公民館主事 島崎佳美氏

現地散策 案内人 小滝在住

樋口正幸氏、中澤謙吾氏、吉田理史氏



お話し

「震災からの歩み」 樋口正幸氏

「小滝ってすばらしい！」 中澤謙吾氏

「小滝に来てよかった」 吉田理史氏、吉田咲氏

振り返り ブナ林にて



<受講者アンケートから>

- 小滝のことがよくわかり良かったです。爽やかな林の中で素晴らしい講義を聞いてリフレッシュしました。集落の中の水が支えにもなっていると思います。（一般）
- 現地の風土を感じないとわからない。皆さんの地域愛や地域の豊かさにふれることができた。（諸団体）
- 思い出溢れる話を聞いて、この地に住むみなさんがうらやましく感じました。（社会福祉協議会）
- 小滝区と歴史、人生と重ねて心に響くお話をお聴きできた。（学校教職員）
- 大人がワクワクする。遠い先を想像するからとのお話が印象的でした。（公民館職員）
- 皆さん別の立場、角度からお話をいただきましたが、皆さん共通しているのは、目がキラキラしていたことです。とても楽しそうにお話をされており、小滝への想いや誇りを感じ取ることができました。特に、地域外から移住されたという吉田さんのお話で登場した「小滝ファミリー」というワードは小滝を一言で表していると思いました。「子どもは俺たちが育てる」という言葉が表している様に、子供が大切にされ、その結果小滝の誇りが受け継がれていくのだろうと感じました。（県職員）